

難波西鶴と海の道

【70】

森田 雅也

前回は西鶴と九州の「八代」の話でした。西鶴は九州について、とても多くの正確な情報を得ていたようです。

島大根という巨大大根があり、コンテストを行って

収集源があったといえるでしょう。

「西鶴諸国ばなし」[貞享2(1685)年刊]序正保2(1645)年刊]文には「筑前の国には、ひとつをさし荷ひの大蕪あり。豊後の大竹は手桶となり」と九州の不思議話を一つあげています。

「西鶴諸国ばなし」序文の前後は実際にはあるのに、自らが見聞していないだけで信じない愚かな態度をやめています。その言説の根拠として、確固たる九州からの正しい情報

「西鶴諸国ばなし」[貞享2(1685)年刊]序正保2(1645)年刊]文には「筑前の国には、ひとつをさし荷ひの大蕪あり。豊後の大竹は手桶となり」と九州の不思議話を一つあげています。

「西鶴諸国ばなし」序文の前後は実際にはあるのに、自らが見聞していないだけで信じない愚かな態度をやめています。その言説の根拠として、確固たる九州からの正しい情報

まず、筑前(福岡県北西部)には、大人2人でカゴを担ぐようにしなければ持てない大きな蕪がある、と知っていますが、先ほどの「毛吹草」には、やはり九州の特産として書かれていま

「西鶴諸国ばなし」序文の前後は実際にはあるのに、自らが見聞していないだけで信じない愚かな態度をやめています。その言説の根拠として、確固たる九州からの正しい情報

確固たる正しい情報源

辺から黄金を発見して長者となる前半と、長者のまな娘玉世姫のもとに、花人親王(後の用明天皇)が山路と名のる草刈りの童子として現れ、宇佐八幡の放生会での巧みな射芸によって姫を得て都に帰る後半からなる。幸若舞の「鳥帽子折」の中に見えるのがもっとも古い(『日本国語大辞典』「用明天皇」(在位585~587年)は第31代天皇。ご存じ、聖徳太子の父君です。「幸若舞」とは、室町時代に流行した舞を伴う語り物です。

「真野の長者」は江戸時代より随分以前に成立し、全国の人に広く知られた伝説であったことが分かります。

それでは、西鶴の時代の「まねの長者」伝説とはどんな話でしょうか。次回に続きます。

(関西学院大学文学部文芸学言語学教授)

二つの九州の不思議話